

2020年3月期 第2四半期 決算説明会

2019年11月19日

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

2020年3月期 第2四半期決算状況

1. 売上高・利益	4
2. セグメント別業績	6
・自動車電池（国内）	7
・自動車電池（海外）	9
・産業電池電源	11
・車載用リチウムイオン電池	13
・その他	15
3. 貸借対照表	17
4. 設備投資・減価償却費・研究開発費	18
5. キャッシュ・フロー計算書	19
6. 連結業績予想の修正	20

海外事業を取り巻く環境と対応

1. ASEANの現状認識と対応	23
2. 中国の現状認識と対応	24
3. トルコ周辺国の現状認識と対応	25
4. EUの現状認識と対応	26

リチウムイオン電池の革新と成長

1. リチウムイオン電池ヒストリー	28
2. リチウムイオン電池の用途・性能	29

2020年3月期 第2四半期決算状況

1. 売上高・利益

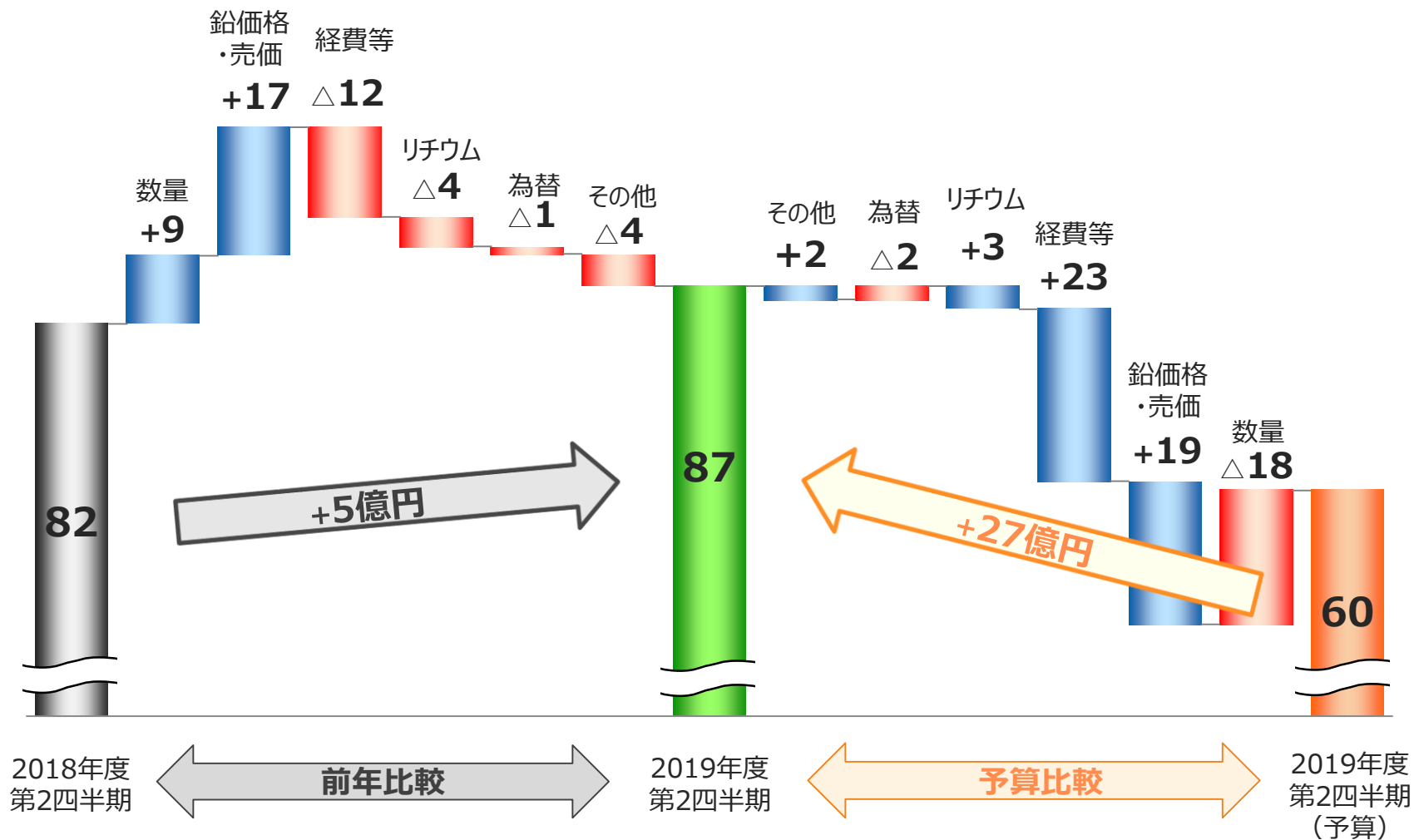
(億円)

	2018 年度 第2四半期	2019 年度 第2四半期	増減	(前期比)
売上高	1,954	1,904	△50	(△2.6%)
営業利益 (営業利益率)	70 3.6%	75 4.0%	+5 +0.4P	(+8.5%)
のれん等償却前営業利益 (のれん等償却前営業利益率)	82 4.2%	87 4.6%	+5 +0.4P	
経常利益	75	84	+9	(+12.4%)
特別利益	2	23	+21	
特別損失	3	18	+15	
税前四半期純利益	75	89	+14	
法人税等	27	28	+1	
非支配株主に帰属する四半期純利益	13	14	+1	
親会社株主に帰属する四半期純利益 (四半期純利益率)	35 1.8%	48 2.5%	+13 +0.7P	(+38.2%)
のれん等償却前 親会社株主に帰属する四半期純利益 (のれん等償却前四半期純利益率)	48 2.4%	59 3.1%	+11 +0.7P	
国内鉛建値 (万円/t)	31.06	27.62	△3.44	
L M E (US\$/t)	2,245	1,958	△287	
為替 (円/US\$)	110.71	108.67	△2.04	

1. 売上高・利益

営業利益増減要因（前年・予算比較）

（億円）



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益です。

2. セグメント別業績

(億円)

		2018年度 第2四半期		2019年度 第2四半期		増減	
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:P)
自動車電池	国内	414	27 (6.4)	409	21 (5.1)	△5	△6 (△1.3)
	海外	875	47 (5.3)	817	49 (6.0)	△58	+2 (+0.7)
産業電池電源		344	8 (2.2)	376	23 (6.2)	+32	+15 (+4.0)
車載用リチウムイオン電池		220	△3 (△1.3)	214	△7 (△3.4)	△6	△4 (△2.1)
その他		101	4 (4.4)	88	1 (1.0)	△13	△3 (△3.4)
合計		1,954	82 (4.2)	1,904	87 (4.6)	△50	+5 (+0.4)

(注1) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

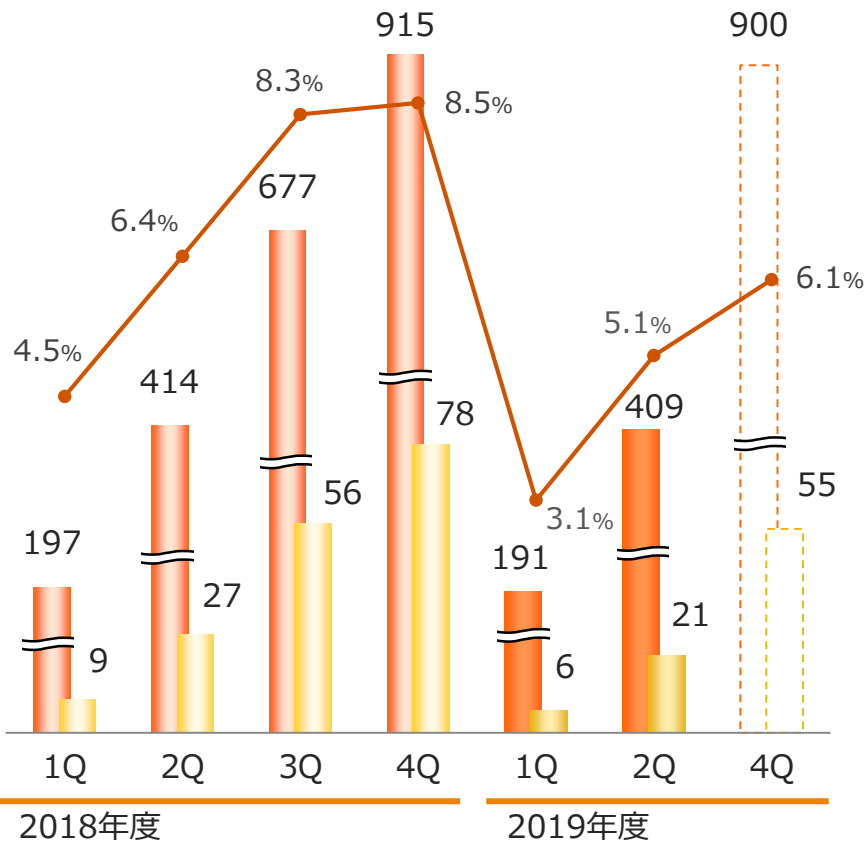
(注2) 2019年度より、従来「自動車電池海外」に含まれていた一部の子会社等について、「産業電池電源」にセグメントを変更しております。2018年度は、変更後の業績を記載しております。

2. セグメント別業績（自動車電池（国内））

自動車電池（国内）

売上高・営業利益・利益率

（億円）



2019年度 第2四半期商況

- 新車向け、補修向けともに販売数量が増加
- 補修向けでEN電池が本格化の兆し
- 鉛価格下落に伴う販売価格低下

増減益要因

数量	△1
鉛価格・売価	+4
合理化・経費等	△9

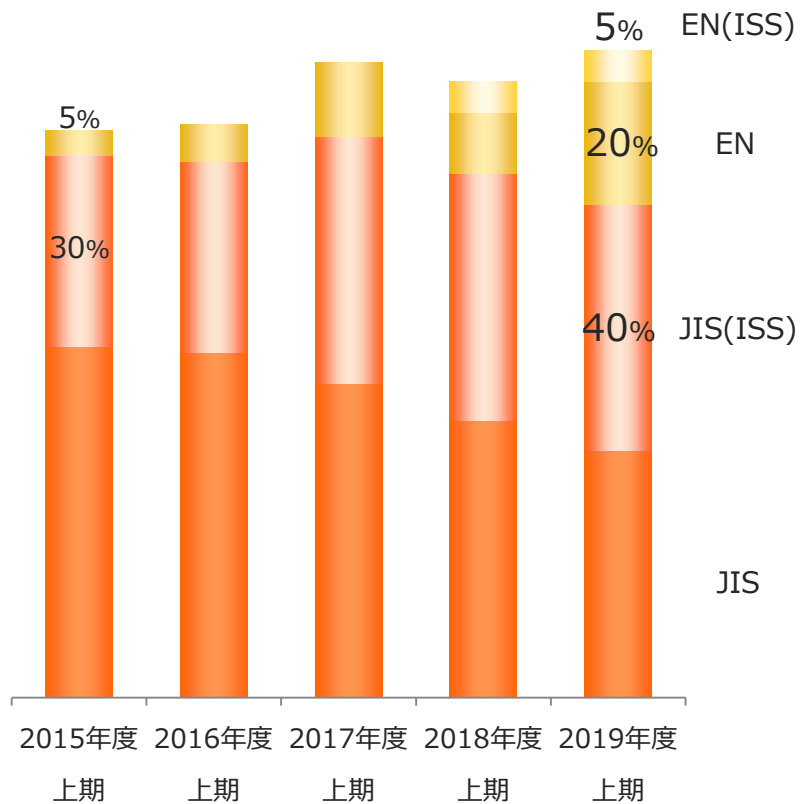
（注）営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん償却前営業利益率です。

2. セグメント別業績（自動車電池（国内））

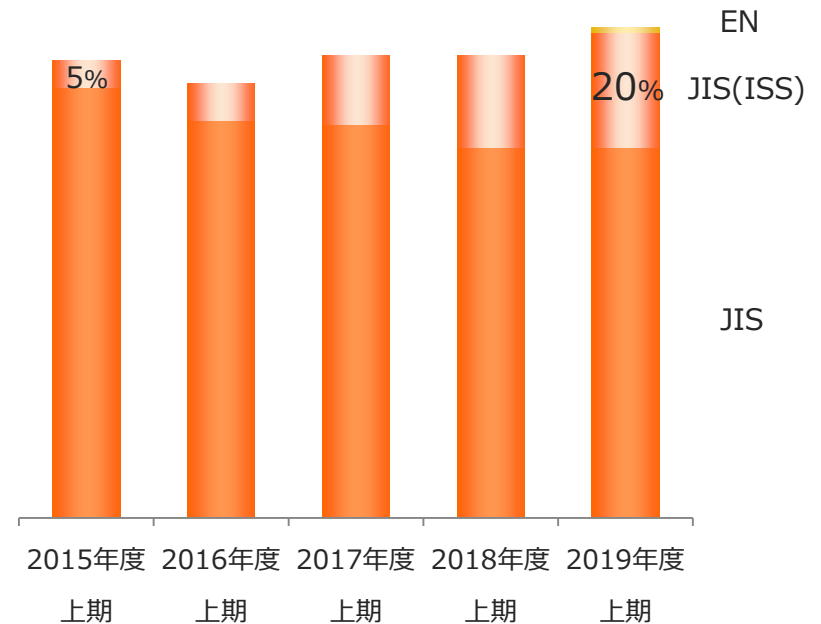
新車・補修向け出荷割合（数量）



新車向け出荷割合



補修向け出荷割合



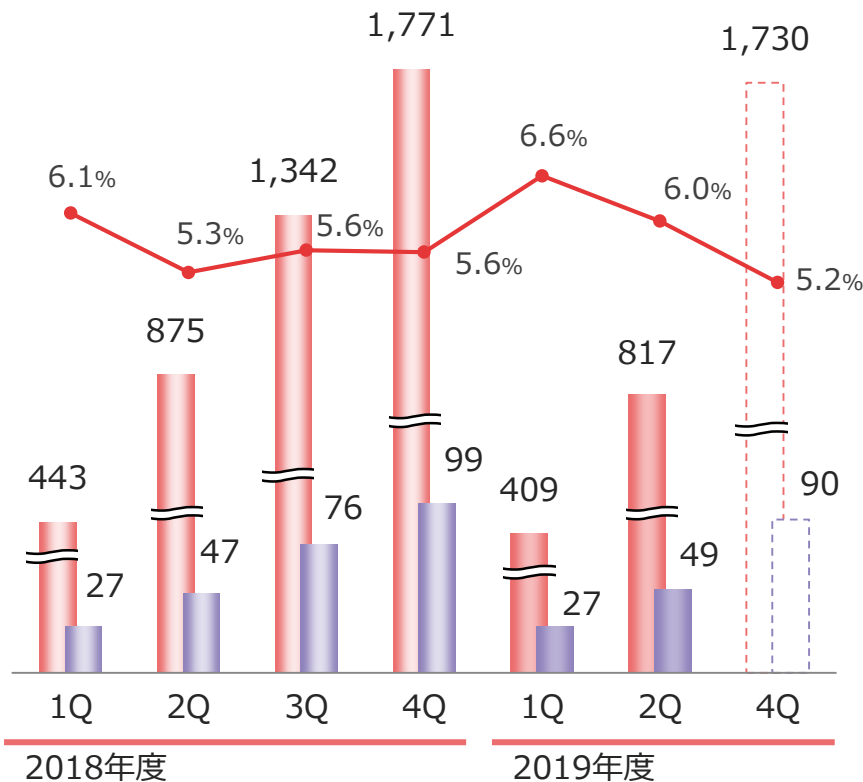
2. セグメント別業績（自動車電池（海外））

自動車電池（海外）

売上高・営業利益・利益率

（億円）

2019年度 第2四半期商況



- 自動車用鉛蓄電池は中国では市況悪化により販売数量が減少、タイを中心に東南アジアでは増加
- オートバイ用鉛蓄電池は中国、欧州で販売数量が減少
- 円高による為替換算の影響

増減益要因

数量	△3
鉛価格・売価	+9
合理化・経費等	△2
為替	△1

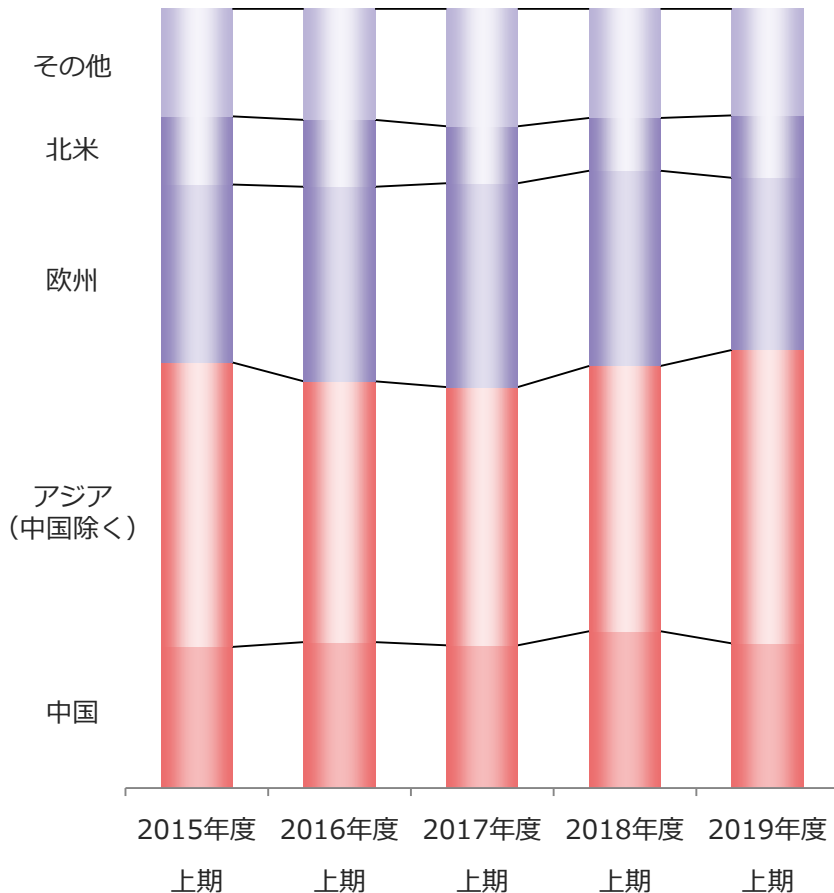
(注) 2019年度より、従来「自動車電池海外」に含まれていた一部の子会社等について、「産業電池電源」にセグメントを変更しております。2018年度は、変更後の業績を記載しております。

2. セグメント別業績（自動車電池（海外））

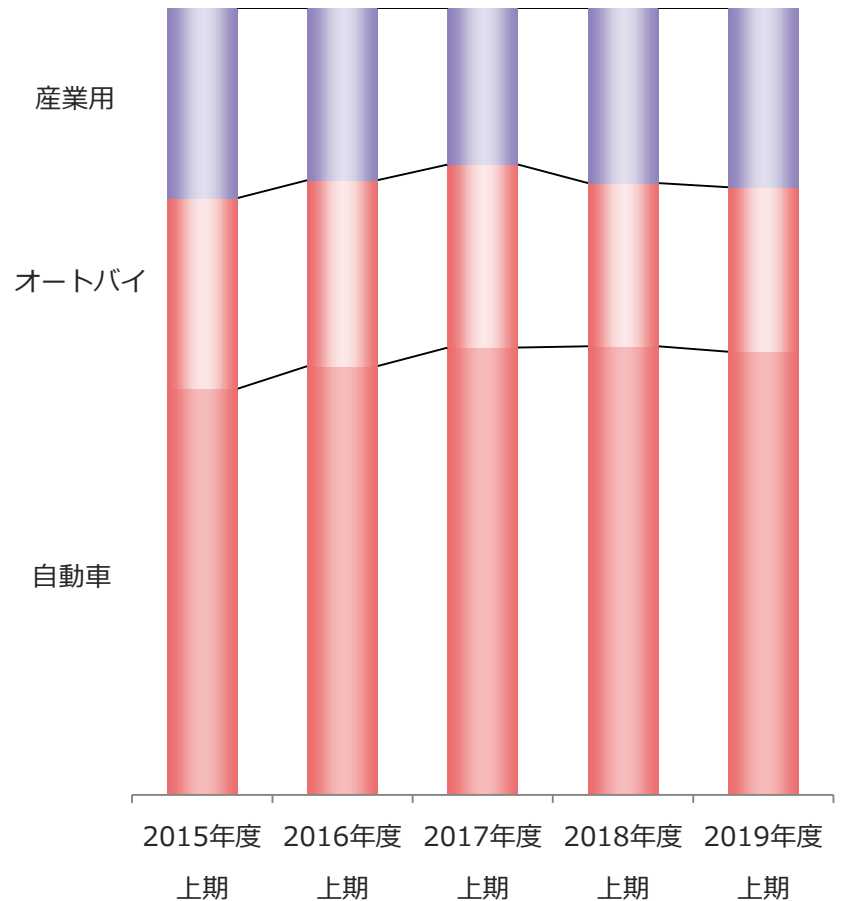
地域別・機種別売上高（産業用含む）



地域別売上高



機種別売上高



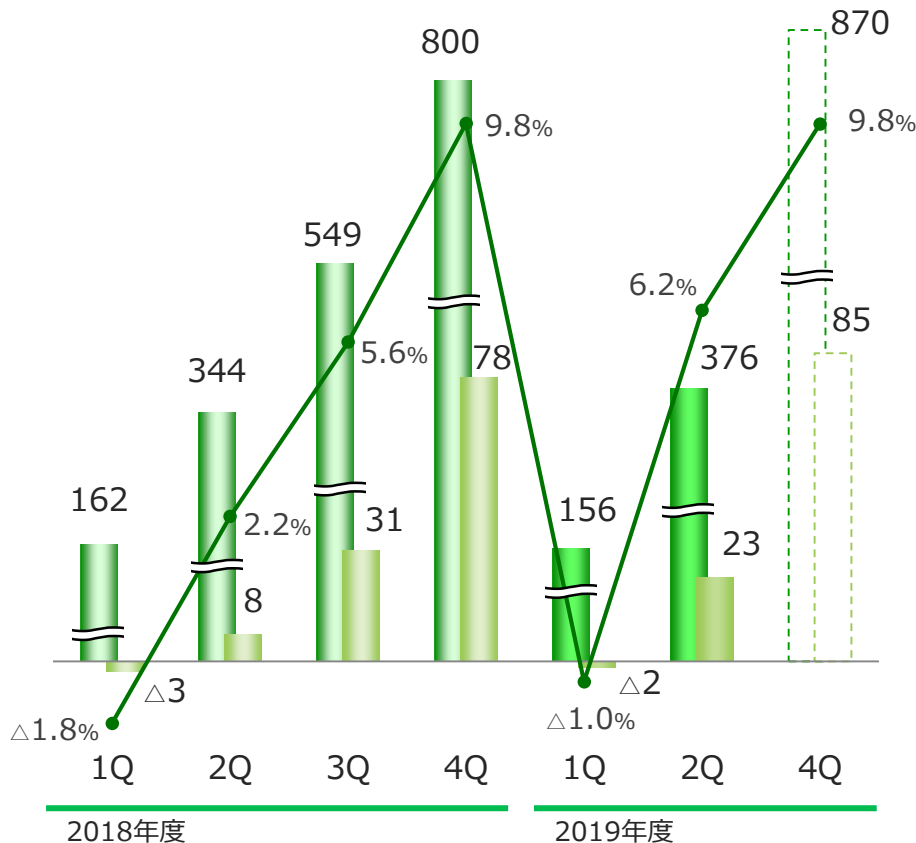
2. セグメント別業績 (産業電池電源)

産業電池電源

売上高・営業利益・利益率

2019年度 第2四半期商況

(億円)



- 主力である産業用電池・電源装置の販売が好調に推移
- 照明機器の販売減少
- 特機事業を譲渡した影響 (2018年6月に譲渡)

増減益要因

数量	+13
鉛価格・売価	+3
合理化・経費等	△1

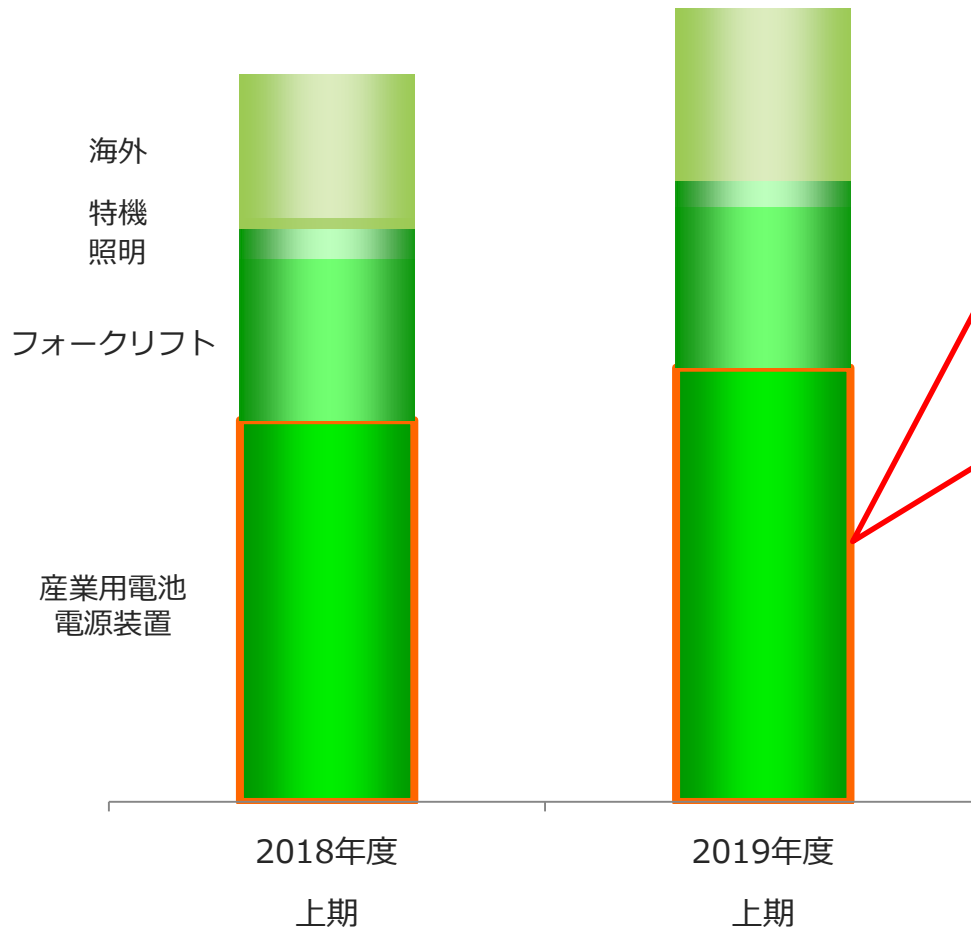
(注) 2019年度より、従来「自動車電池海外」に含まれていた一部の子会社等について、「産業電池電源」にセグメントを変更しております。2018年度は、変更後の業績を記載しております。

2. セグメント別業績 (産業電池電源)

機種別売上高

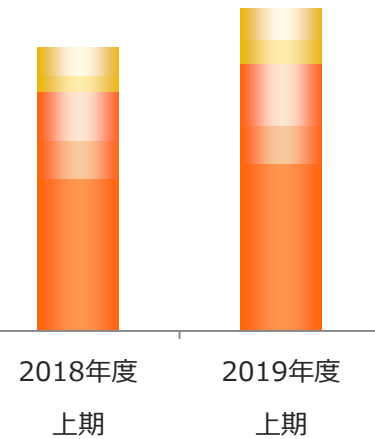


機種別売上高



需要先別売上高

鉄道
電力
官公庁
通信
民需



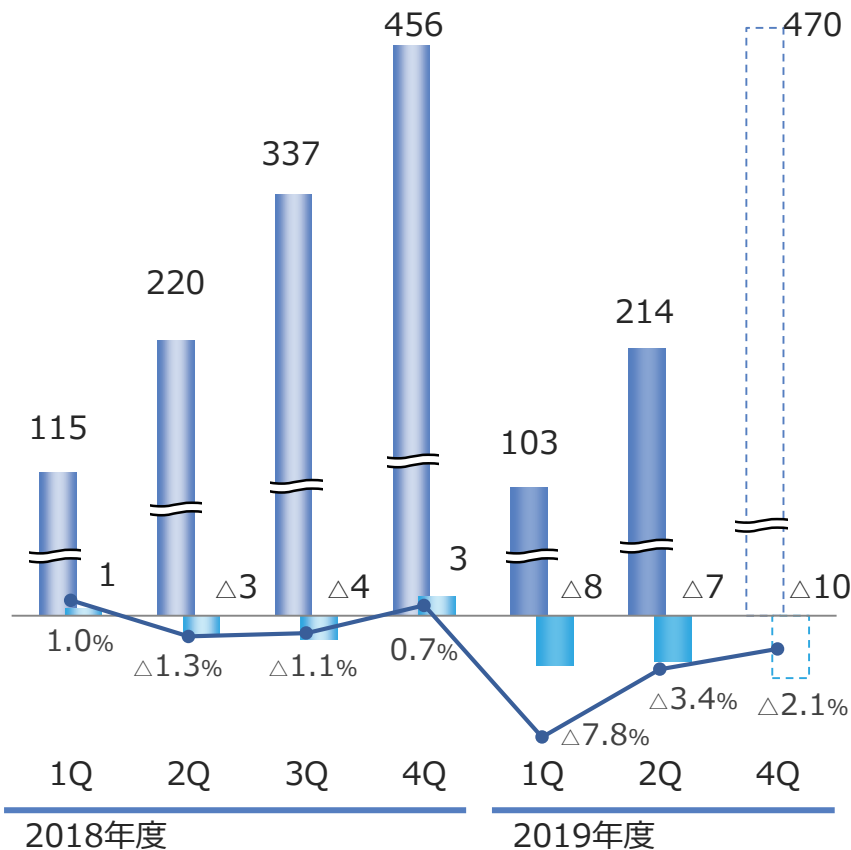
2. セグメント別業績 (車載用リチウムイオン電池)

車載用リチウムイオン電池

売上高・営業利益・利益率

(億円)

2019年度 第2四半期商況



- [リチウムエナジー] 電気自動車用リチウムイオン電池の販売減少
- [ブルーエナジー] ハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売堅調

増減益要因

ハンガリー工場の立ち上げ費用発生

2. セグメント別業績（車載用リチウムイオン電池）

GS Yuasa Hungary の新工場が稼働開始



ハンガリー工場



GS Yuasa Hungary Ltd.

2019年
10月
稼働

生産能力（初期）

50 万個／年間

※リチウムイオン電池セルは
リチウムエナジー ジャパンで生産して輸出

- 欧州自動車メーカーへ始動用12V LiBの出荷開始
- 複数の自動車メーカーからの引き合いに対応中



将来

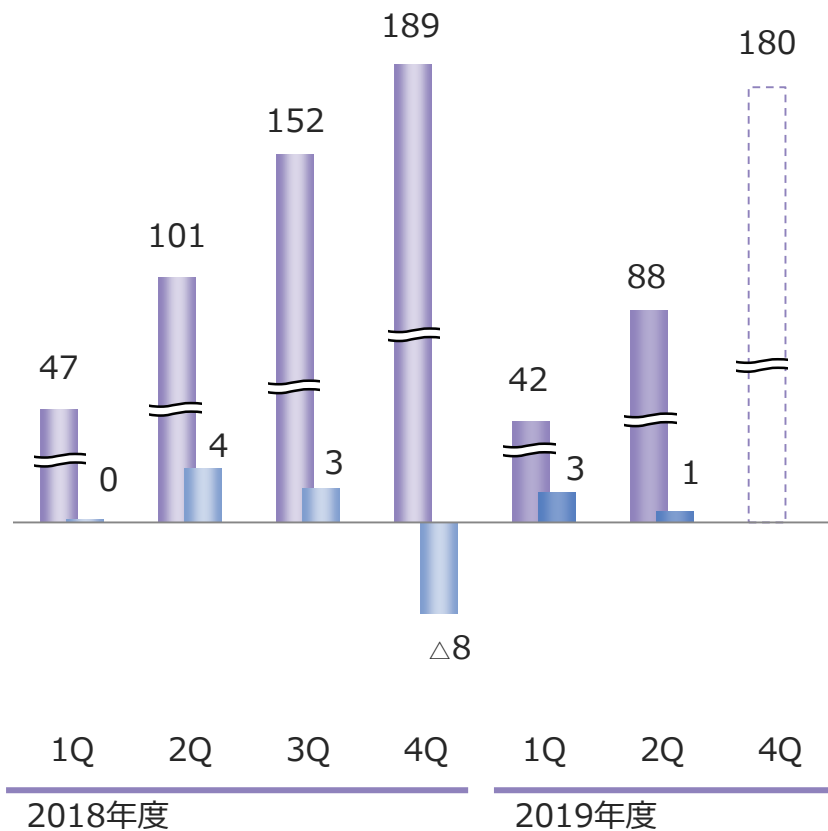
電動化に対応するLiB生産の欧州拠点

- ・ 段階的に生産能力を拡大
- ・ リチウムイオン電池セル生産を検討
- ・ 補機用、自動運転バックアップ用途に展開

2. セグメント別業績 (その他)

その他

売上高・営業利益



(億円)

2019年度 第2四半期商況

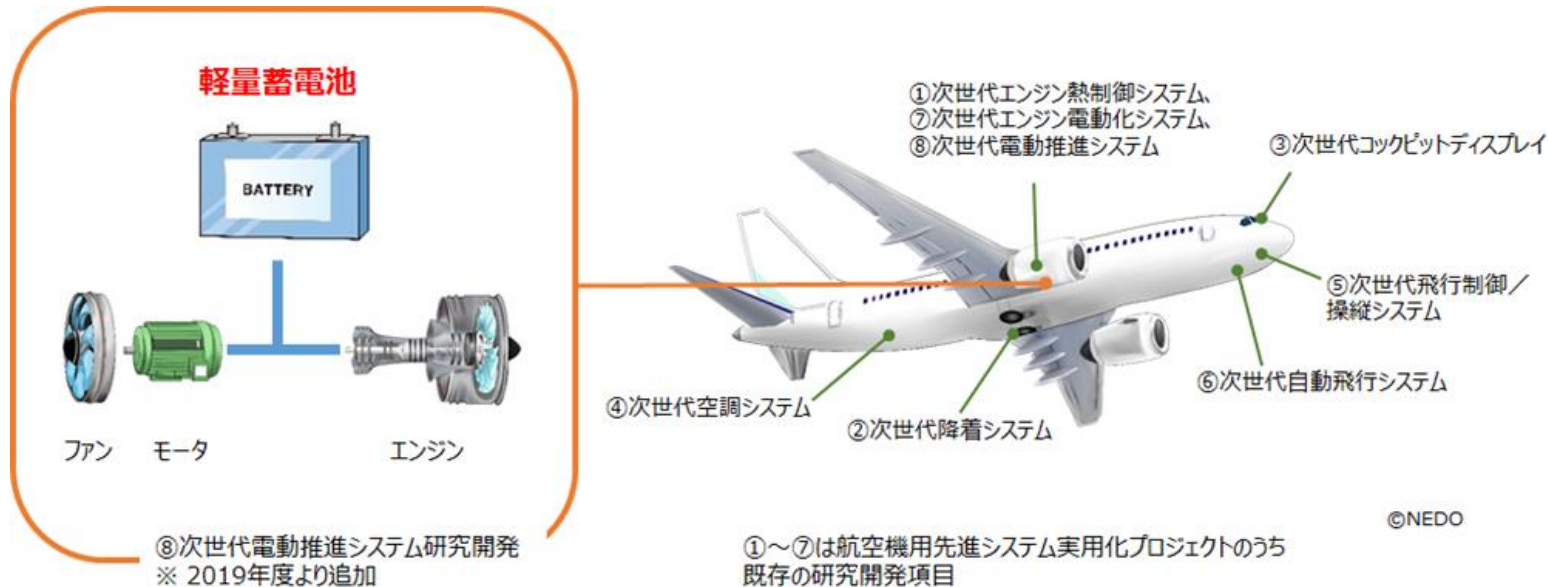
- ▶ 一部特殊用途向け電池の一時的な生産減少

増減益要因

研究開発費の増加

2. セグメント別業績（その他）

NEDOの航空機用先進システム実用化プロジェクトに参画



2030年 エネルギー密度1000Wh/kg（セル単位）を目標

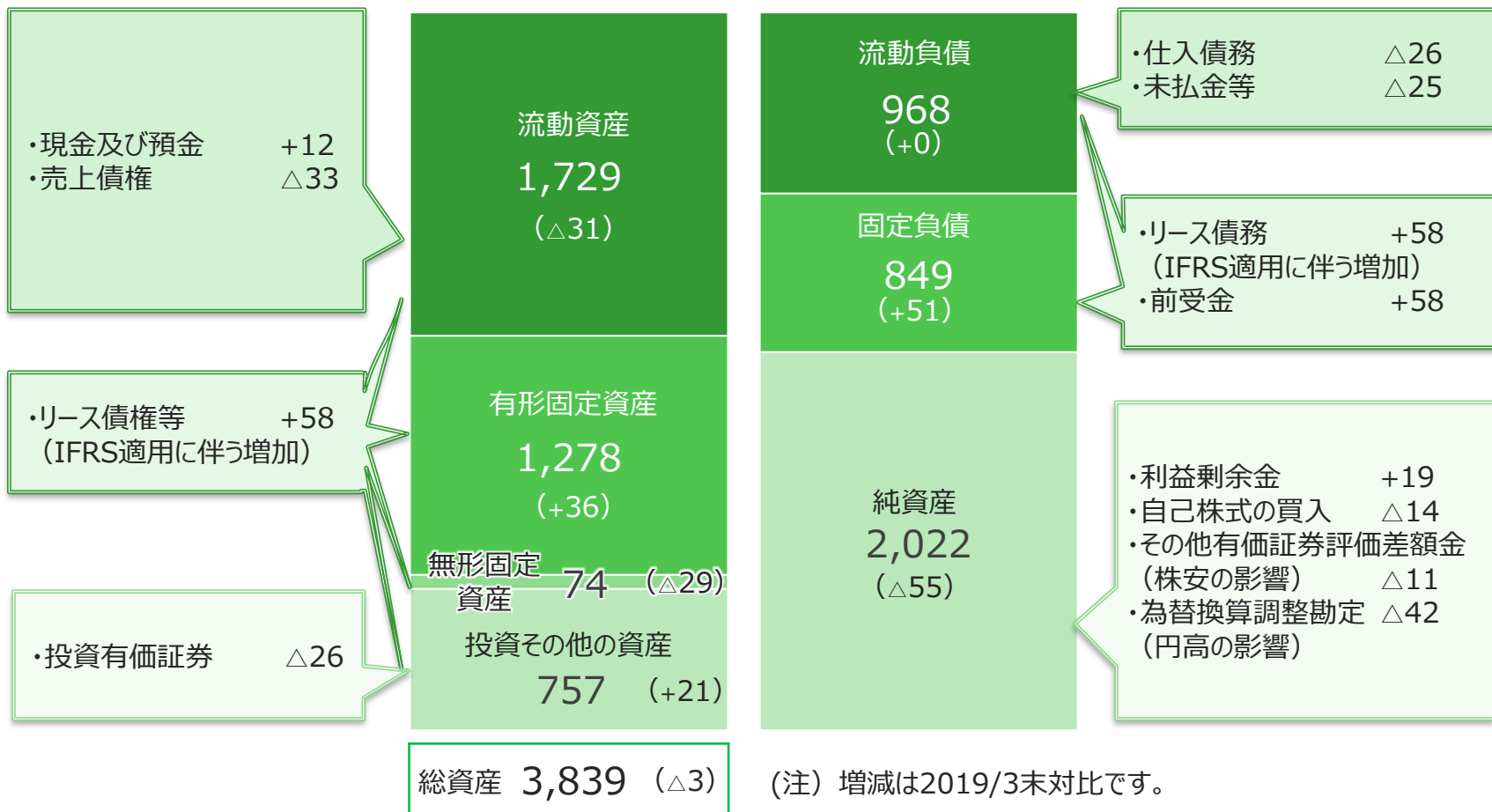
2019年 経済産業省とボーイング社が
将来の航空機の技術協力にて合意

2019年 NEDO PJによる軽量蓄電池の開発を開始

2011年 シリコン-硫黄電池の開発に着手

3. 貸借対照表

(億円)



(注) 増減は2019/3末対比です。

	2019/3末	2019/9末
自己資本比率	46.4%	45.2%
有利子負債	669億円	673億円

4. 設備投資・減価償却費・研究開発費

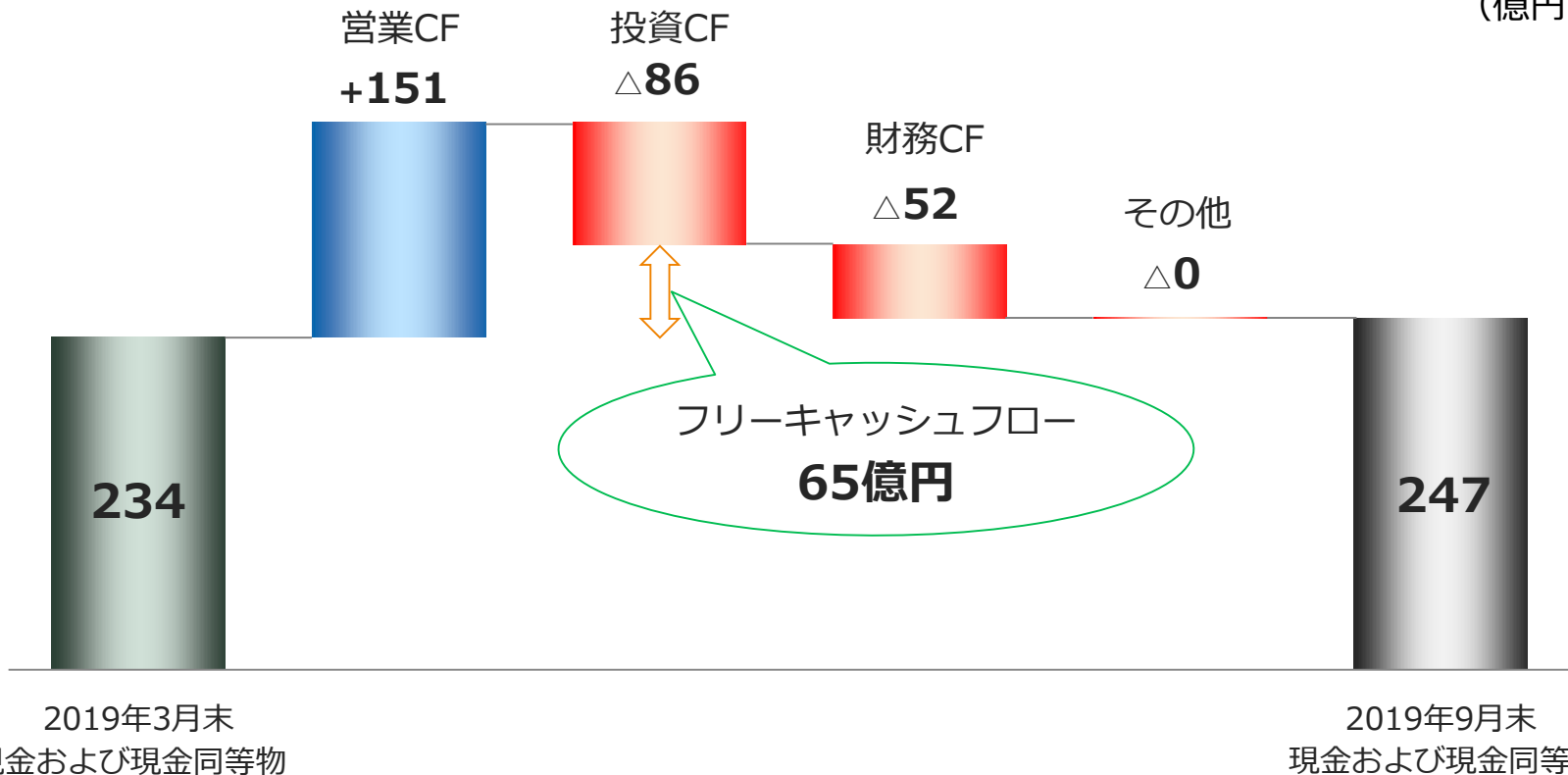
(億円)

		2018年度 第2四半期	2019年度 第2四半期	2018年度 通期	2019年度 通期 (予想)
設備投資額		81	86	215	270
自動車電池	国内	16	8	36	30
	海外	28	32	67	90
産業電池電源		6	6	21	20
車載用リチウムイオン電池		19	28	52	70
その他		12	13	39	60
減価償却費		77	79	161	180
内、車載用リチウムイオン電池		22	15	43	40
研究開発費		44	48	99	110
(売上高研究開発費率)		2.2%	2.5%	2.4%	2.7%

(注) 2019年度より、従来「自動車電池海外」に含まれていた一部の子会社等について、「産業電池電源」にセグメントを変更しております。2018年度は、変更後の業績を記載しております。

5. キャッシュ・フロー計算書

(億円)



ポイント

- 償却前利益183億円を確保したことにより、営業CFは151億円となった。
- フリーキャッシュフローは65億円となり、それを株主還元の原資および手許現金の積み増しに配分した。
- その結果、キャッシュの第2四半期残高は247億円となった。

6. 連結業績予想の修正

	2018 年度 実績	2019 年度 修正予想	増減 (修正-実績)	(億円) 2019 年度 当初予想	
売上高	4,131	4,150	+19	4,300	
営業利益 (営業利益率)	227 5.5%	200 4.8%	△27 △0.7P	200 4.7%	
のれん等償却前営業利益 (のれん等償却前営業利益率)	251 6.1%	220 5.3%	△31 △0.8P	220 5.1%	
経常利益	247	220	△27	220	
親会社株主に帰属する当期純利益 (当期純利益率)	135 3.3%	120 2.9%	△15 △0.4P	120 2.8%	
のれん等償却前 親会社株主に帰属する当期純利益 (のれん等償却前当期純利益率)	160 3.9%	145 3.5%	△15 △0.4P	145 3.4%	
前提条件	国内鉛建値 (万円/t)	29.89	30.0	-	30.0
	LME (US\$/t)	2,122	2,100	-	2,100
	為替 (円/US\$)	111.07	110.0	-	110.0

修正の理由

- 売上高は、中国を中心に海外での販売が当初予想から減少する見込み。
- 営業利益は、第2四半期累計期間において主原料である鉛価格の下落に伴って産業電池電源で増加し当初予想を上回ったが、上記の売上高の減少や足元の原材料価格が上昇傾向にあることなど先行き不透明なことから据え置き。

6. 連結業績予想の修正

(億円)

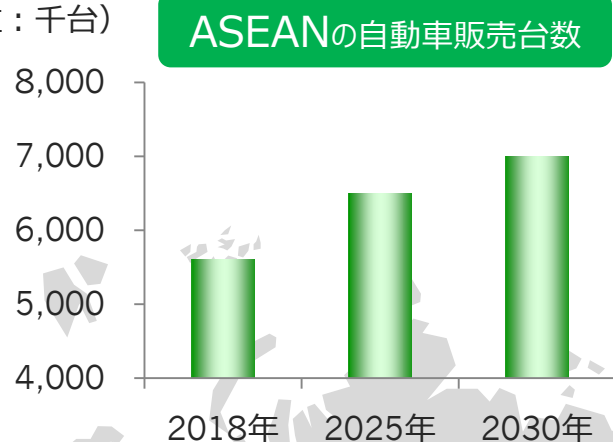
		2018 年度 実績		2019 年度 修正予想		増減 (修正-実績)		2019 年度 当初予想	
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)
自動車 電池	国内	915	78 (8.5)	900	55 (6.1)	△15	△23 (△2.4)	900	60 (6.7)
	海外	1,771	99 (5.6)	1,730	90 (5.2)	△41	△9 (△0.4)	1,880	95 (5.1)
産業電池電源		800	78 (9.8)	870	85 (9.8)	+70	+7 (△0.0)	870	75 (8.6)
車載用 リチウムイオン電池		456	3 (0.7)	470	△10 (△2.1)	+14	△13 (△2.8)	470	△10 (△2.1)
その他		189	△8 (△4.0)	180	-	△9	-	180	-
合計		4,131	251 (6.1)	4,150	220 (5.3)	+19	△31 (△0.8)	4,300	220 (5.1)

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

海外事業をとりまく環境と対応

1. ASEANの現状認識と対応

(単位：千台)



注：2018年度以降予想
出典：富士経済
「2017年版 HEV、EV関連市場徹底分析調」より

ASEANの自動車販売台数

機会

- ・モータリゼーションの進展により、自動車の新車販売台数、保有台数ともに増加
- ・オートバイの新車販売台数は底堅く推移

リスク

ローカルメーカーとの競争の激化

影響

市場シェアおよび販売価格の低下

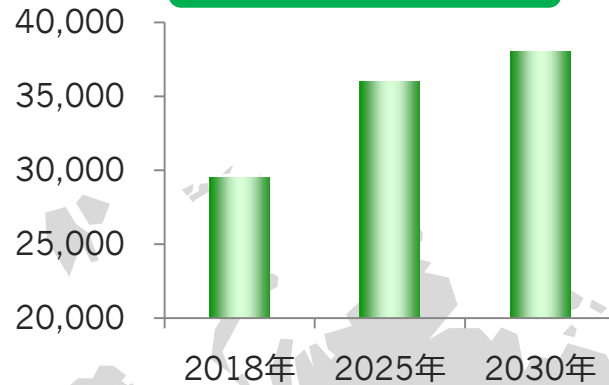
対応

- ・市場に合わせた商品の開発
- ・リードタイム短縮や販売リベートなどによる補修市場での販売拡大
- ・ミャンマーをはじめメコン経済圏への販売拡大

2. 中国の現状認識と対応

(単位：千台)

中国の自動車販売台数



注：2018年度以降予想

出典：富士経済
「2017年版 HEV、EV関連市場徹底分析調」より

機会

自動車の新車販売台数は一時的に減少するものの、中長期的には拡大し、自動車保有台数は増加

リスク

米中貿易問題とEV化

影響

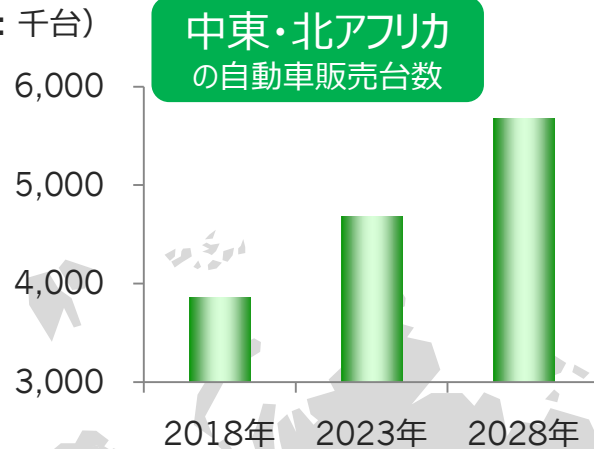
- ・新車市場の低迷と補修市場の競争激化
- ・現状EVにも鉛蓄電池は搭載されるため、EV化の影響は限定的
- ・排ガス規制に対応してISS車が増加

対応

新車・補修市場ともに高付加価値製品であるISS車用電池の拡販

3. トルコ周辺国の現状認識と対応

(単位：千台)



注：2018年度以降予想

出典：FOURINより

機会

中東、北アフリカなどトルコ周辺国では経済成長に伴って自動車の新車販売台数、保有台数ともに増加

リスク

- ・ 為替変動および金利上昇
- ・ 地政学リスク

影響

- ・ 鉛をはじめ原材料調達コストの上昇
- ・ 資金調達コストの上昇
- ・ サプライチェーンの寸断、工場の操業への影響

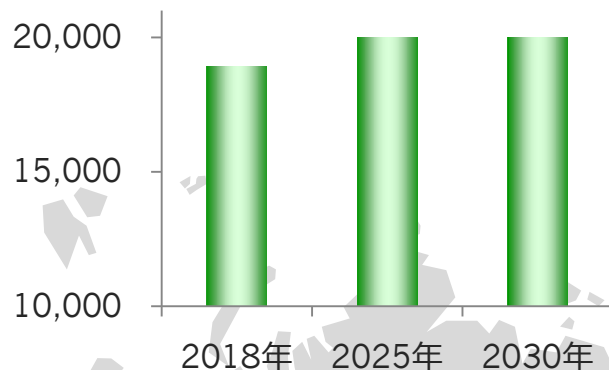
対応

- ・ 周辺国への輸出ビジネスの拡大
- ・ 新工場への投資が一巡したため有利子負債を圧縮
- ・ 地政学リスクに対応したBCPの検討

4. E Uの現状認識と対応

(単位：千台)

欧州の自動車販売台数



注：2018年度以降予想

出典：富士経済
「2017年版 HEV、EV関連市場徹底分析調」より

機会

- ・ 自動車用、産業用ともに安定した鉛蓄電池需要
- ・ 欧州の高級自動車メーカーが12V LiBを採用

リスク

- ・ **英国のEU離脱 (Brexit)**
- ・ **新車向け鉛蓄電池需要の減少**

影響

- ・ 関税や通関手続きによるコスト増加とリードタイムの遅延

〔産業用鉛蓄電池は英国で生産、自動車用鉛蓄電池はアジアから輸入して、各々英国内および欧州大陸で販売〕

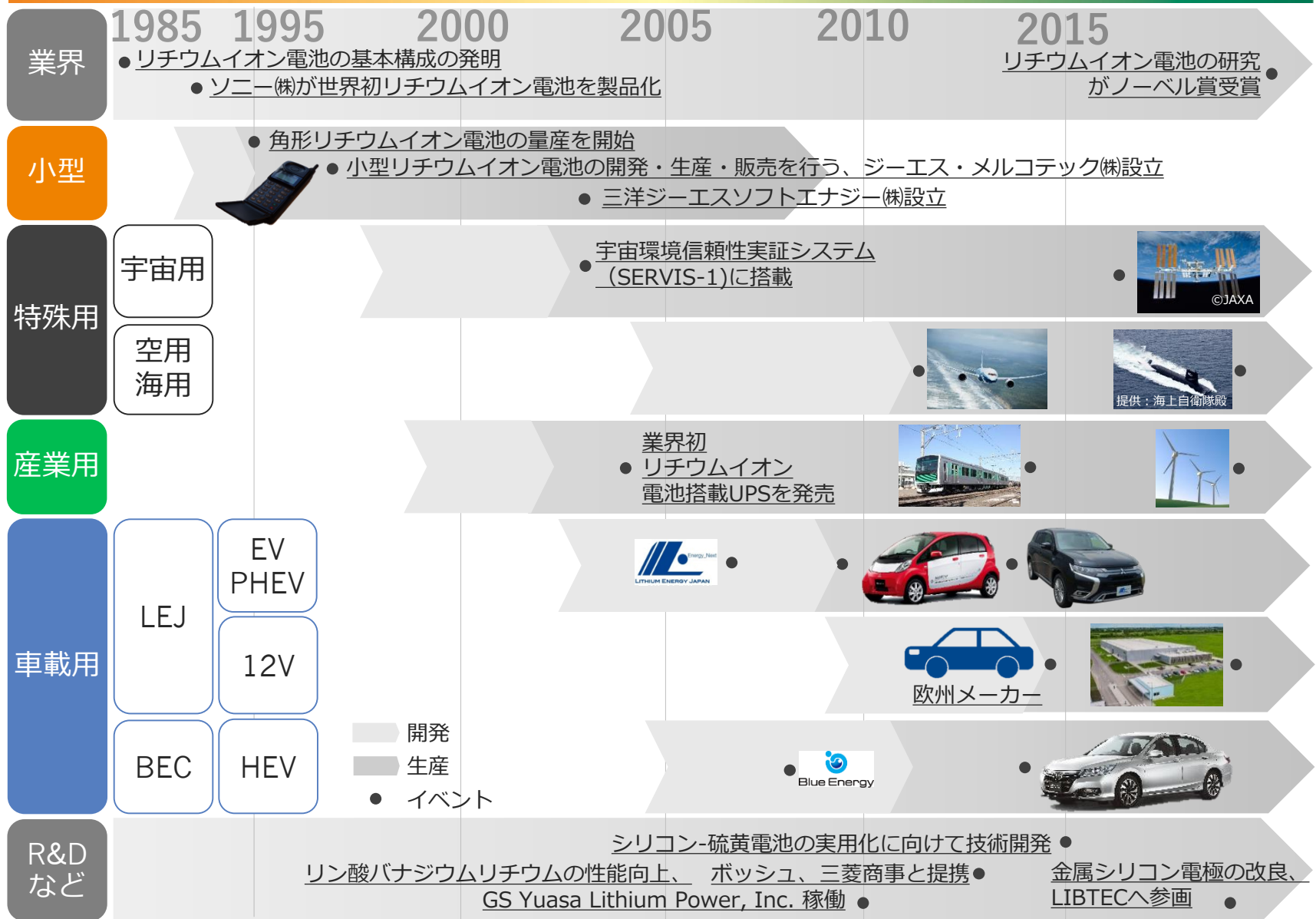
- ・ 当社は欧州自動車メーカーへの鉛蓄電池の納入が少ないため影響は軽微

対応

- ・ 英国生産品以外は納入ルートの変更
- ・ ハンガリーの新工場を拠点に12V LiBを供給

リチウムイオン電池の革新と成長

1. リチウムイオン電池ヒストリー



2. リチウムイオン電池の用途・性能

	用途	製品	正極材	容量 (セル)
小型	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話用 ・ノートPC用 他 		LCO	1Ah以下
特殊用	<ul style="list-style-type: none"> ・宇宙用 (衛星、ロケット他) ・航空機用 ・水中機器用 他 		LCO	用途に応じてさまざま
産業用	<ul style="list-style-type: none"> ・バックアップ電源用 ・再生可能エネルギー用 ・移動体用 (AGV、クレーン他) ・鉄道用 他 		LMO LMO+NMC	25~50Ah
車載用	<ul style="list-style-type: none"> ・EV用 ・PHEV用 		LMO+NMC LFP	20~80Ah
	<ul style="list-style-type: none"> ・HEV用 		NMC	5Ah
	<ul style="list-style-type: none"> ・始動用 (12V) 他 		-	-

LCO : コバルト酸リチウム LMO : マンガン酸リチウム NMC : 三元系 (ニッケル-マンガン-コバルト) LFP : リン酸鉄リチウム

本資料は、当社グループの業績等についての一般的な情報提供を目的とするものです。本書に含まれる予測、予想、計画その他の将来情報は、当社において利用可能な情報に基づく現時点における当社の認識又は判断に基づくものであり、実際の結果はこれらの情報と大きく異なることがあります。また、当社は、本資料に記載された情報に変更又は更新があった場合にも、その内容を提供又は開示する義務を負うものではありません。



Creating the Future of Energy

連絡先

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

コーポレート室（広報） 青木 裕 ・ 柿島 辰年 ・ 田中 祥太

Tel : 075-312-1214

<https://www.gs-yuasa.com/jp>

參考資料

社外からの評価

CSR評価

	MSCI (米) ※1 ESG格付け	東洋経済新報社 ※3 CSR評価				EcoVadis社 (仏) ※4 CSR評価
		人材活用	環境	企業統治	社会性	
2019年	A ※2	AA	AA	AA	AA	57点 (ランク: シルバー)
2018年	AA	AA	AA	AA	AA	50点 (ランク: シルバー)
2017年	AA	AA	AA	AA	AA	50点 (ランク: シルバー)
2016年	A	C	C	B	C	37点 (ランク: ブロンズ)

※1 MSCI (米) ESG格付けはジャパンESGセレクトリーダーズ指数によるものであり、「AAA、AA、A、BBB、BB、B、CCC」の7段階評価

※2 MSCIが新たに採用した評価尺度である「グリーン技術製品の収益」の内容を開示出来ておらず格下げ

※3 東洋経済新報社CSR評価は「AAA、AA、A、B、C」の5段階評価

※4 EcoVadis社 (仏) CSR評価は100点満点、調査対象企業平均は44点 (2019年2月時点)

CSRへの取り組みに対する評価、認定、表彰



➤ 経済産業省の「健康経営優良法人 2019～ホワイト500～」に認定



➤ 厚生労働省の「子育てサポート企業」として「くるみんマーク」認定を取得



➤ DBJ健康格付の最高ランク「従業員の健康配慮への取り組みが特に優れている」を取得

GSユアサが選定されているESGインデックス

➤ MSCI ジャパンESG セレクト・リーダーズ指数



2019 Constituent
MSCI ジャパンESG
セレクト・リーダーズ指数

➤ FTSE4Good Index Series



FTSE4Good



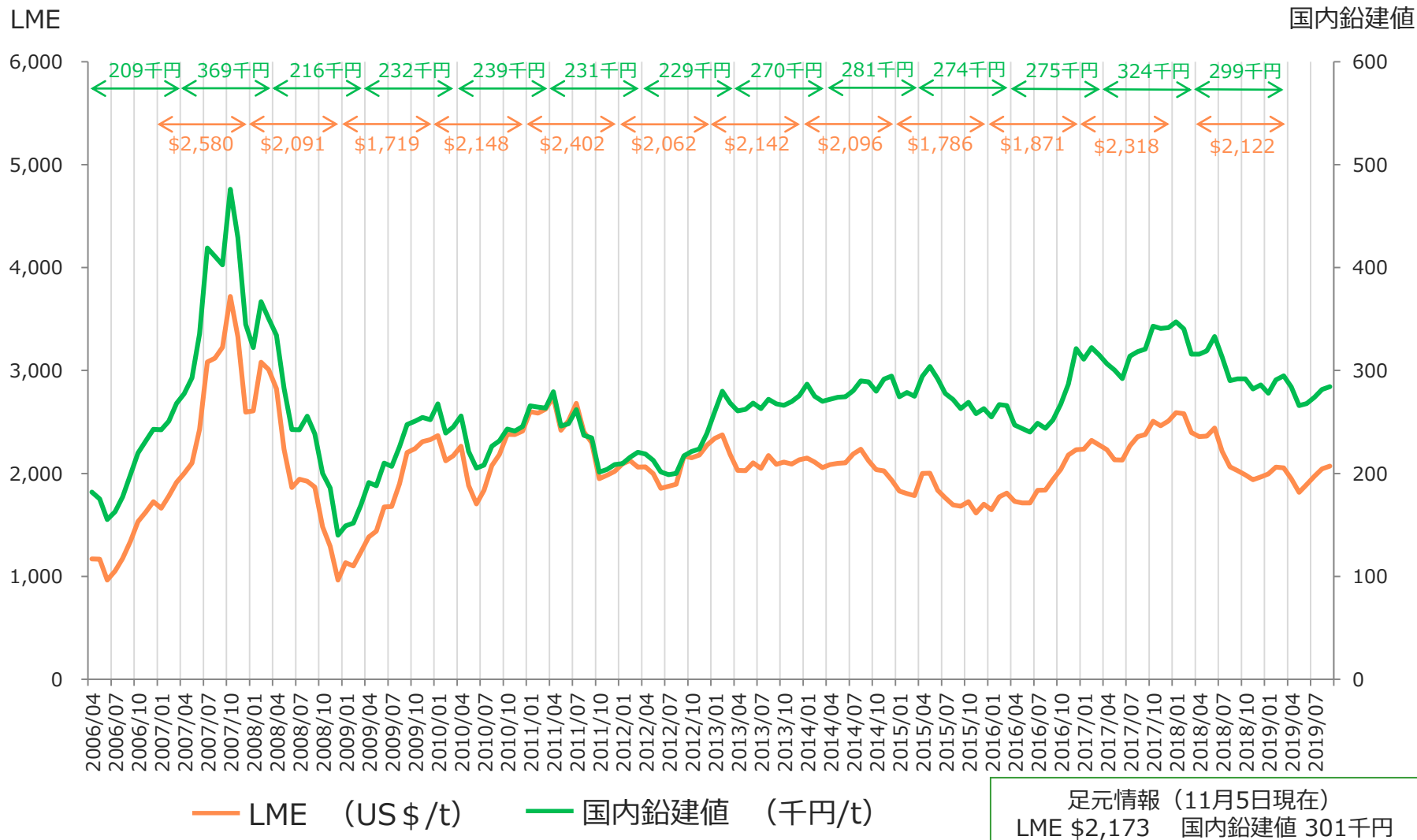
FTSE Blossom
Japan

➤ FTSE Blossom Japan Index

※1 株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーションのMSCI指数への組み入れ、およびMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたは指数名の使用は、MSCIまたはその関係者による株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーションの後援、推薦またはプロモーションではありません。MSCI指数はMSCIの独占的財産です。MSCI指数の名前およびロゴはMSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

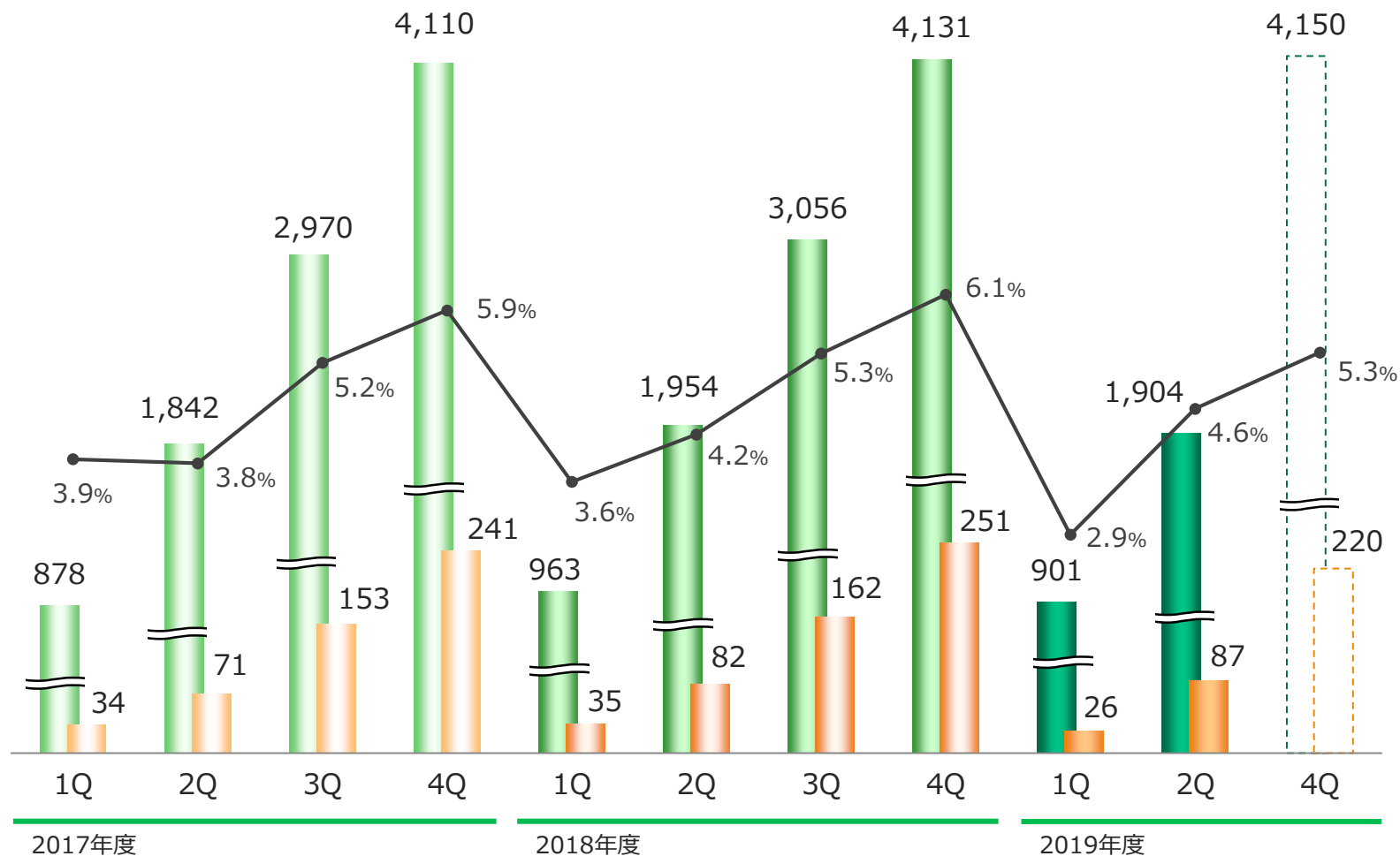
※2 FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Companyの登録商標)はここに株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーションが第三者調査の結果、FTSE4Good Index Series並びにFTSE Blossom Japan Indexの組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE4Good Index Series並びにFTSE Blossom Japan IndexはグローバルなインデックスプロバイダーであるFTSE Russellが作成し、環境、社会、ガバナンス (ESG) について優れた対応を行っている企業並びに日本企業のパフォーマンスを測定するために設計されたものです。FTSE4Good Index Series並びにFTSE Blossom Japan Indexはサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。

原材料価格の推移



売上高・営業利益・利益率推移

(億円)



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん償却前営業利益率です。